



新工場の完成予想図

JFE商事ブリキセンター

# 新本社工場を建設へ

## 松原集約 生産性など向上図る

JFE商事ブリキセンター（本社）大阪府大東市、清未浩史社長は、松原工場（松原市）を閉鎖し、現本社工場の近隣地に新工場を建設する。安全・品質・生産性の向上を目的としたもの。レベラーを集約するほか、レベラーラインすべてをラインルーム化する。本年8月の着工、2019年4月の竣工を予定し、機械設備の設置・移設を経て、19年度上期中の本格稼働を目指す。

同社は、JFE商事グループの中核ブリキ加工センター。18坪缶・ペール缶・一般缶向けのブリキ・ティンフリースチール・表面処理鋼板のレベラー加工・販売や金属印刷を行っている。本社工場と松原工場があり、生産量は年間約3万ト。営業拠点は本社、松原営業所、東京営業所（東京都千代田区）。

新工場の建設地は大東市新田旭町で、現本社工場から約900mと近接する立地。5月中旬に土地所有者との間で土地売買契約を完了した。敷地面積は約5100平方m。施工は大和ハウス工業。現本社工場は手狭で、製品在庫スペースの確保が課題となっていた。新工場によりスペースを拡張し、安全面の強化と合わせて品質向上、生産効率化を目指す。現本社と距離の離れていた松原工場を閉鎖し、機能を新工場に全面的に移すことで、加工応援などの連携を取りやすくなる。

現在レベラーは本社工場と松原工場に各2ライン保有するが、松原工場の設備を1ラインに集約した上で、新工場に老朽更新して設

置する。更新するレベラーの板厚仕様は0・15～0・6mm、設備メーカーは平安製作所。本社工場は1ラインを改造し、新工場に移設する。この結果4ラインから、新工場2ライン・現本社1ラインの3ラインに再編する。

加工ラインの集約と老朽化更新による生産効率アップと同時に、近年顧客ニーズの高くなっていったレベラーラインのクリーンルーム化を実施する。クリーンルームの施工は新工場が大和ハウス工業。現社はイカリ消毒。また、新工場と現本社工場のレベラー計2ラインには表裏面検査機を導入し、品質向上・不良品防止策を強化

する。現本社の印刷タテムウエット）1ライン・塗装（コータ）2ラインは従来通り稼働させる。

同社は2015年に、旧JFE商事大阪ブリキセンターと新キヨイ鋼業が統合して現体制となった。今回の新工場計画を推進する中で、さらに社内での融和、一体化を進める。

完成後には本社所在地を移し、新工場を本社工場とする。近接する2工場の一体運営を実現し、最適生産体制を構築する。